

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	予 算 特 別 委 員 会 環 境 厚 生 分 科 会	会 議 場 所	第 1 委 員 会 室
		担 当 職 員	山 末
日 時	平 成 3 1 年 3 月 1 8 日 ( 月 曜 日 )	開 議	午 後 3 時 0 0 分
		閉 議	午 後 3 時 3 2 分
出 席 委 員	◎ 富 谷 ○ 並 河 長 澤 大 塚 三 宅 小 松 平 本 西 口		
理 事 者 出 席 者			
事 務 局	山 末 主 事		
傍 聴 者	市 民 0 名	報 道 関 係 者 0 名	議 員 0 名

## 会 議 の 概 要

### 1 開会

### 2 討論～分科会採決

[委員間討議]

<平本委員>

川と海つながり共創事業経費について、300万円の根拠がはっきりしない。霧の芸術祭との連携ということで、ただ単なる制作費だけではないということはわかったが、300万円の算出根拠がますますわからなくなった。各委員はどのように受け止めたか。

<長澤委員>

エコバッグは、市民が自分の好みに応じて広く使っていくことを目指していると思う。そのモデルになるようなものをつくろうとしていると理解した。

<西口委員>

芸術家の人たちとコラボしながらつくっていくということについては、まだはっきりとしたものがないのではないかと。成果を見るしかないと思う。

<小松委員>

市長質疑でもあれだけの答弁しかなかったため、本当にこれからということだと思うが、事業の途中の報告などは求められないのか。

<富谷委員長>

具体的なイベントが決まればできると思う。

<小松委員>

委員会としても関心を持っているということを表示したいと思う。

<富谷委員長>

具体的に案が形になれば、途中経過も含めて担当課に求めていきたい。

<平本委員>

エコバッグの作成がメインに出過ぎているが、市長の答弁を聞いて、エコバッグは基本的に啓発活動の一環であると捉えた。枚数や作成方法が手探りの状態なので、ある程度目鼻立ちが立った時点で報告いただくようお願いしておきたい。また、啓発活動を行うに当たり、50代の男性はマイバッグを持っている人が少ないという

ことも含めて、そういったところにどのように効果的に働きかけていくかということとを十分に調査研究いただくということが大事だと思う。

<富谷委員長>

エコバッグの持参率を上げるための事業だと思うが、300万円をかけて、どうなればこの事業が成功したのかということが見えづらいと思う。この事業は評価の仕方がいまひとつわかりにくいと思うが、各委員はどう考えるか。

<平本委員>

市長質疑では、50代の男性は比較的所持率が低いということだったが、そこに訴えかける前に、関心のある人に対して行うということであった。市長は、今回限りではなく、継続的に周知啓発をしようとしていると思う。成果が見えにくい部分はあるが、あくまでもこれはPR活動の一環であると思う。事業を継続するのであれば、検証を行った上で、より成果が上がるように取り組んでいってもらわなければならない。成果は見えにくいのが、我々も一緒に進んでいって事業の展開を見ていかないと判断できないのではないかと思う。

<富谷委員長>

今後、具体的なものが決まれば報告いただき、その結果や検証結果も担当課に報告を求めていきたい。他の項目で委員間討議はあるか。

<平本委員>

家庭相談員等設置経費について、新たな体制づくりは当然大事だが、現在着任いただいている方に、できるだけ長く勤めていただきたい。人が入れ替わると、事務的作業の引き継ぎはできても、人間関係の引き継ぎはできない。漠然と安定的な体制と書いてあるが、要は継続性を持ってできる事業の体制構築と新たな体制強化の2本立てで進める必要があるのではないかと思う。市長の答弁を聞いて、どのように捉えられたのかを聞きたい。

<長澤委員>

初めて予算審査を行った感想として、教育委員会や生涯学習部の関係で、各分野の相談員や支援員を非常に幅広く非常勤や臨時の形で採用していると再認識した。しかし、きょうの説明では、助産師や手話通訳士は正職員として採用するという話であった。非常勤の専門員や相談員を確保して定着させていくことと、専門分野の正職員を採用していくことの兼ね合いについて関心を持った。

<平本委員>

家庭相談員は嘱託職員だが、正職員として着任いただくことはできないのかと聞いたところ、決して無理ではないが、正職員には人事異動があり、それが大きな課題であるといことであった。正職員で3～4年で異動してしまうと人間関係を再びゼロから構築していかなければならない。以前に専門性を持った職員の継続性を確保することを指摘要望した経過はあるが、なかなか難しいようである。

<小松委員>

相談員にはいろいろな精神的な負担がある。先ほどの市長質疑の中では、1人に負担をかけないようチームできちんと共有していくという説明であった。また、外部アドバイザーについても前向きな意識であったので、少し安心した。

<西口委員>

相談員に対するバックアップをしなければ、負担が重すぎて離職につながっていくケースが非常に多くなると思う。市長からも前向きな答弁をいただいたことは一歩前進だと思う。今後、議会からこのようなアドバイザーがいるということを理事者に対して提案していくことも大事である。

<並河副委員長>

非正規ではなく正職員が何人かいれば、1～2人が抜けても他の部分でカバーして、また帰ってきてもらうということもできる。身分保障をしっかりと行い、その人が仕事に対して責任を持てるような市の体制をつくっていかねばならないと感じた。正職員であれば異動をしなければならないが、非常勤であれば異動しなくてもよいというのもおかしな話かと思う。今、指摘要望の話があったが、きちんと正職員で仕事に当たってもらうことを委員会として要望すればよいのではないかと感じた。

<富谷委員長>

非正規ではなかなか安定化につながらないと思う。できる限り正社員という形でいていただける体制づくりも考えていただきたいと思う。外部のアドバイザーについても要望していきたい。

～15:24

#### 4 討論～分科会採決

[討論]

<並河副委員長>

第2号議案について、反対討論を行う。今回の予算については、1人当たり平均で8.4%、8,600円の値上げの予算が提案されている。国保の基金から繰り入れを行って軽減を図りたいという説明だったが、値上げには変わらない。基金からの繰り入れにより値上げを抑えるべきではないかと思っている。以上の点から国民健康保険事業特別会計予算について反対する。

<平本委員>

賛成の立場で討論する。さまざまな疑義が生じた内容についても市長質疑でしっかりと答弁をいただいた。本分科会に関係するところでは、環境先進都市を目指し、新たな取り組みに向けた予算編成をされているということと、情報発信に努めていくという姿勢がよく見えた。これまで亀岡市のだめだったところは情報発信である。そういった意味で、非常に前向きな予算組みだと思う。しかし、予算の執行に当たっては、もう少しコンセプトをはっきりさせ、いずれの事業についてもしっかりと成果・効果が認められるようにしていただきたいと思う。

～15:27

<富谷委員長>

ただいまから、順次採決を行う。

[採決]

第1号議案	(一般会計)	挙手	全員	可決
第2号議案	(国保)	挙手	多数	可決 (反対:並河、長澤)
第3号議案	(休日診療)	挙手	全員	可決
第4号議案	(介護保険)	挙手	全員	可決
第5号議案	(後期高齢)	挙手	全員	可決
第10号議案	(病院)	挙手	全員	可決

～15:31

[指摘要望事項]

<富谷委員長>

指摘要望事項について、意見はあるか。

<平本委員>

エコバッグだけではなく、啓発活動の一定の見通しが立った時点で方向性等の報告を求めたいということが1点である。また、エコバッグだけではないが、啓発活動が効果的になるように取り組んでいただきたい。家庭相談員については、相談員自体をサポートする体制の構築と離職率を下げるための体制強化にしっかり取り組んでほしいという内容を入れてはどうかと思う。

<富谷委員長>

具体的な方向性が決まれば報告をいただくということと、体制強化に取り組んでほしいという内容を指摘要望事項としてよいか。

<平本委員>

川と海つながり共創事業については、より効果的な事業として取り組めるように、コンセプトをはっきりとさせてほしいということも含めていただきたい。300万円の使い道について、エコバッグばかりが先行しているが、プラスチックごみゼロを推進し、環境先進都市として取り組んでいく事業の啓発活動の一環の中のエコバッグということで私は受け取った。エコバッグの制作等の前に、まずはその300万円でどのように効果的に市民に周知・啓発し、どのようにエコバッグの持参率を上げていくのかということについて、しっかりとしたコンセプトを持って効果が上がるように取り組んでいただきたい。

<富谷委員長>

これらの意見を指摘要望事項として報告することとする。委員長報告については、これまでの審査内容を踏まえ調整するため、正副委員長に一任願う。

散会 ～15:35